

## 「授業改善推進プラン」の全体計画・各教科の取り組みについて

大田区立矢口東小学校

校長 高橋 茂雄

平成23年度「授業改善推進プラン」の全体計画・各教科等の取り組みについて、お知らせいたします。

本校では毎年、大田区の現4・5・6年生対象に「大田区学習効果測定」を国語、算数、社会、理科の4教科で行っています。また18年度より実施している東京都の学力調査や文部科学省の学力調査結果などを基に、全教員で数年間の児童の実態や傾向の分析を通して、授業改善につなげる取り組みを進めております。

本校では、小学校期に育てる力を「生活力づくり」「体力づくり」「心づくり」「学力づくり」ととらえ、知・徳・体の調和のとれた教育活動を全教職員が一丸となって実践し、児童一人一人に社会的自立の基礎が身に付けられる学校を目指しております。上記の調査結果を受けて本校の児童の学力における課題を明らかにし、指導方法の一層の改善を目指して、この度「学力向上推進プラン」全体計画・各教科の授業改善プランを策定いたしました。

この「学力向上推進プラン」全体計画・各教科の授業改善プランは、基礎・基本の確実な定着を大きなねらいとしていますが、その実現のためには、学校と家庭との連携・協力を進め、児童が主体的に学習しようとする意欲を高めることをねらいとしていますので、今後ともご理解、ご協力の程をお願いいたします。

## 【学力向上のための視点】

1. 18年度から22年度までの各種の調査結果を比較検討するとともに、昨年度の授業改善推進プランの検証を行い、より本校児童の各教科等の成果と課題を明確にしていく。
2. 行事等による授業カットをできるだけ行わないよう、曜日の入れ替えや等により週時数を確保したり、3学期の学校公開日の振替休業日を設けなかったりすることで十分な授業時間の確保を図る。つまずきやすい内容の確実な習得を図るために繰り返しの学習や反復学習、知識・技能を活用する学習(観察・実験のレポート作成や論述など)を行う時間を充実させる。
3. 算数科の少人数指導や国語や算数の時間講師、学習指導講師や特別支援員あるいは生活指導支援員などの活用を図りながら、個に応じた指導の充実を進める。
  - 1年:国語科の学習では、講師を各学級週4時間配置し複数指導体制を実施する。
  - 2年:国語科の学習では、講師を各学級週3時間配置し複数指導体制を実施する。
  - 6年:国語科の学習では、講師を学級に6時間配置し複数指導体制を実施する。  
算数科の学習では、講師を5時間配置し担任及び少人数指導担当者と連携を図りながら、1学級3分割の指導体制を実施する。
  - 6年:国語の学習では、講師を3時間配置し複数指導体制で実施する。3~5年:算数科の学習では、担任及び少人数指導担当者と連携を図りながら、2学級3分割の指導体制を実施する。
  - 2年:音楽科の学習は専科教員が行い情操教育の基礎を培う。
  - 1年:図工科の学習は専科教員が行い情操教育の基礎を培う。
  - 6年:家庭科の学習では、講師を2時間配置して実践的な態度を育てる。
4. 各学年の算数科の学習にステップ学習を取り入れながら、個々の定着状況を把握し、つまずきやすい内容の確実な習得を図る。また3年生以上の児童には、放課後(26回)や土曜日(6回)の補習教室(講師2名を配置)を実施し、学力の定着を図る。
5. 児童の学習への関心・意欲を高めるために、児童の実態に応じた教材研究を行うとともに、企業や公共施設の方々、地域の方などの学校外の人材を活用し、各学年とも体験活動を積極的に取り入れながら、楽しく分かる授業を展開していく。
6. 朝の学習の継続や家庭学習の積み重ねを図りながら、基本的な生活能力である聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと・計算することの定着を図る。特に低学年における家庭学習の重要性を保護者に示し、毎日実施してもらうよう啓発する。
7. 本校の研究を生かし、各学年の発達段階に応じた豊かな表現力のある子どもの育成に努め、全教員が研究授業や授業公開を行い、教師自らの指導技術の資質向上を図りながら、児童への学力を高めていく。
8. 各教科領域で、児童自ら学ぶ意欲と考える力が高まる問題解決学習、体験学習を効果的に展開し、生涯学び続ける「生きる力」を育てていく。特に、体験学習では、生物観察や環境教育及びものづくり教育に力を入れていく。
9. 児童の学力向上を図るためには、児童の基本的な生活習慣、生活のリズム、家庭学習の習慣化の大切さが不可欠である。そのために、挨拶、整理整頓、忘れ物、時間のけじめ、など基本的な生活習慣の徹底をご家庭の協力を得ながら進める。特に5月と10月は、『早寝・早起き・朝ごはん月間』と位置づけ、児童の規則正しい生活習慣の啓発を図る。また、6月と11月に『子どもの心サポート月間』を設定し心の悩みについてのケアを行う。

平成23年度 学力向上を図るための全体計画

大田区立矢口東小学校

- 日本国憲法
- 教育基本法
- 学校教育法
- 小学校設置基準
- 小学校学習指導要領
- 東京都教育目標
- 大田区教育目標 等

大田区立矢口東小学校教育目標

人間尊重の精神を基調として、心身ともに健康で、主体的、創造的に取り組む児童の育成を目指し、次の目標の達成に努める。

○自ら学ぶ子 ○心豊かな子（重点目標） ○たくましい子

- 学校、地域の実態
- 地域の期待や願い
- 保護者の期待や願い
- 期待される児童像

- 各教科の指導の重点
- 国語**  
言語感覚を養い、目的に応じて適切に表現する力を育てる。
  - 社会**  
社会事象に関心をもたせた上で、資料からの読み取る力を育てる。
  - 算数**  
基礎的な計算能力を確実に身に付ける。少人数学習で数学的な見方・考え方を育てる。
  - 理科**  
科学的な見方や考え方を養うために予想や仮説を立て学習する。
  - 生活**  
いろいろなことを体験し、見たもの、気付いたものを絵や文章で表したり、言葉で伝えたりする。
  - 音楽**  
音楽に対する興味・関心を高め、音楽を愛好する心を育てる。
  - 図画工作**  
個性を生かした創造的に表現活動ができる基礎力の育成を図る。
  - 家庭**  
生活を工夫しようとする実践的な態度の育成を図る。
  - 体育**  
様々な運動をバランスよく取り組み健康の維持・増進を目指す。

学校経営の基本方針（学力向上にかかわる要点）

小学校期に育てる力を「生活力づくり」「体力づくり」「心づくり」「学力づくり」ととらえ、知・徳・体の調和のとれた教育活動を全教職員が一丸となって実践し、子ども一人一人に社会的自立の基礎が身に付けられる学校を目指す。

外国語活動の重点

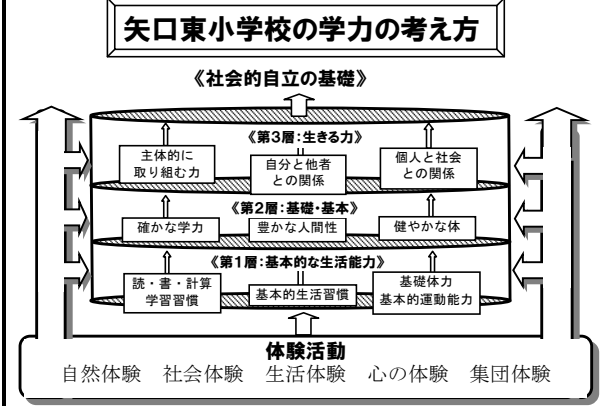
- ・コミュニケーション能力を図る楽しさ

本校における学力向上のための基本方針

- 問題解決力を高めるために、思考力や判断力を育成する。
- 国語科の研究（書くこと）を通して、豊かな表現力を育成する。
- 読書や読み聞かせなどを通して、読解力の基盤の育成に努める。
- 調べる学習を通して、情報収集力や資料分析力を育成する。
- 少人数学習による適切な課題解決を通して、自ら学び、自ら考える力を育成する。
- 体験活動を通して、様々な事象に関心をもち、問題を発見する力を育成する。

総合的な学習の時間の指導の重点

- ・自ら学習課題を見つけ解決する態度
- ・探求型の学習活動の推進



道徳教育指導の重点

- ・基本的生活習慣
- ・豊かな心の育成
- ・生命や自然の大切さ
- ・生きる力の育成

【体験活動】体験活動は、学びの基層であると捉え、感動を覚える機会を多く設定するとともに、各教科などで学んだものの実践・活用を図る。また、基本的生活習慣や集団的行動で身につけるべき基礎基本を体得させる。

【德育】学級経営・専科経営・保健室経営の基本である子ども一人一人の理解に努める。また学校の教育活動全体を通して、心の教育や人権教育の充実を図り、『心豊かな子』の育成を進める。

【体育】健康安全指導や保健指導の徹底を図るとともに、教育相談機能の整備を進める。また、体育科の充実や年間行事に、健康づくりや体力づくりを効果的に取り入れ、『たくましい子』の育成に努める。

【知育】楽しく分かる授業の実践を進めながら『自ら学ぶ子』を育てる。

特別活動の指導の重点

- ・代表委員会、委員会活動の充実
- ・教科・領域等の関連
- ・児童による学校行事の企画立案
- ・異年齢集団での交流

生活指導の重点

- ・「矢東小のやくそく」の徹底
- ・全教職員の児童理解・実践の徹底
- ・避難訓練、防犯訓練等の実施

進路指導の重点

- ・体験学習を通じた人間としての生き方
- ・保護者等との連携
- ・将来にわたって夢や希望を抱く指導

矢口東小学校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>○週3回の朝学習の充実</li> <li>○講師等の活用による複数指導体制の充実</li> <li>○算数のステップ学習の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○十分な授業時間の確保</li> <li>○全学年授業時間を1時間増加・開校記念日の登校・週休日の公開日の振替休業日のカット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総合的な学習と授業研究の実践</li> <li>○5回の校内研究授業と全教員の公開授業の実施。保護者への公開</li> <li>○児童情報の交換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業改善への評価</li> <li>○観点別学習の評価</li> <li>○全家庭を対象とした外部評価の実施と活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的生活習慣の形成への働きかけ（『早寝・早起き・朝ごはん月間』の啓発）</li> <li>○保護者や地域への研究授業の公開</li> <li>○サマースクール・補習・土曜教室の連携及び地域支援本部立上げの準備</li> </ul>

国語科における平成22年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・校内研究として「心豊かに表現できる児童の育成」を目指し、生活科や総合的な学習の時間に表現することに力を入れて取り組んできた。その結果、国語の学習の中でもいろいろな表現方法を使って、自分の思いや考えを表現するようになってきた。
- さらに国語における表現力や理解力を高めていくため、学習過程を明確にし、言語活動を工夫することが必要である。表現方法や語彙を豊かにするような学習内容を考え、さらなる授業改善を図りたい。

国語科における調査結果の分析

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	
内容別結果の分析	・話の中心に気を付けて内容を聞き取ることは、期待値を上回っている。さらに自分の考えを明確にして話したり、相手の意図をつかみながら聞いたりできるよう、指導を続けていく必要がある。	・書くことについては、学年が上がると期待値を上回っていく。考えが明確になるように、発達段階に応じて段落構成を考えて書くことを指導していきたい。	・物語よりも説明文の内容を読み取ることが苦手なようで、期待値に達していない。中心となる語や文をとらえたり、文章の内容を的確に押さえたりすることができ、力を養っていく必要がある。	・漢字の読み書きについては、学年が上がると期待値を上回っている。さらに、ローマ字・ことわざ・慣用句・故事成語などや、辞書を利用して調べることに興味をもてるように指導していく必要がある。	
観点別結果の分析	・関心・意欲・態度	・話す・聞く能力	・書く能力	・読む能力	・言語についての知識・理解・技能
	・学年によって、興味関心にひらきがみられる。一層国語に対する興味・関心を伸ばしていくように学習内容を工夫していく必要がある。	・期待値に達している。さらに相手の意図をとらえながら聞いたり、自分との立場や意図の違いをはっきりさせながら話したりできる力を付けさせたい。	・学年によって、習熟の度合いが異なる。各学年の指導の積み重ねが大切なので、発達段階を意識しながら言語活動を考えていきたい。	・どの学年も期待値を下回っている。目的に応じて本を選んで読書したり、事実・感想・意見を読み分けたりすることが必要である。	・ほぼ期待値に達している。さらにローマ字を様々な教科や活動の中で使用し、漢字の読み書きや適切な言語活動を選んで、繰り返し指導を続けていく必要がある。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 国語に対する関心・意欲をさらに高めていきたい。  
→関心・意欲が高まるよう日常的に言葉を取り上げ、学習活動や指導計画も工夫していく必要がある。
- 2 相手や目的・意図に応じて、調べたことや考えたことなどを工夫しながら書く力を付けさせたい。  
→段落構成を考えて書くことや、様々な表現の仕方を具体的に指導していく。
- 3 文章の内容や要旨をとらえながら読む力が、十分ではない。  
→読書を通して様々な文章に触れさせ、文章の内容や要旨を読み取らせる。

国語科の授業改善策

- ・国語に対する関心・意欲を高め、語彙を豊かにするために
  - 全……俳句や短歌、詩を校内に掲示し、言語環境を整えるとともに、文章で話す習慣をつけさせる。
  - 低、中……図書ボランティアの活用を図り、本の読み聞かせの時間を確保し、読書の楽しさを味わうことができるようにする。また言葉遊び、詩やことわざなどにも関心をもたせ、基本的な話し方を日常的に指導する。
  - 高……矢東タイム(朝学習)を活用し、読書の時間を確保しながら日常的に本に親しませる。また、短歌・俳句・慣用句・故事成語や辞書を利用して調べることに興味をもたせる。
- ・相手や目的、意図に応じて、文章構成を考えて書いたり、表現を工夫したりする力を付けるために
  - 低……書くことによって表現する喜びを感じられるように、学校行事や生活科と関連させながら、学習内容を工夫する。日記や詩、紹介文や手紙文などの書く活動に、日常的に取り組ませる。
  - 中……自分の考えが明確になるよう文章構成を考えて書かせる。学校行事や総合的な学習の時間と関連させながら、学習内容を工夫する。詩や物語、案内状や礼状などの手紙を書く活動に取り組ませる。
  - 高……さまざまな場面で書く活動を取り入れ、段落構成を考えながら書くことに慣れさせる。詩や物語、短歌や俳句などを書いたり、効果的な表現の仕方を学んだりする学習に取り組ませる。
- ・文章の内容や要旨を的確に読み取る力を付けるために
  - 低……楽しんで読書しようとする態度を育て、事柄の順序や場面の様子に気を付けながら読ませる。
  - 中……いろいろな種類の本に関心をもたせ、内容の中心をとらえたり、段落の関係を考えたりしながら読ませる。
  - 高……目的に応じて本を選んで読書したり、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実・感想・意見などを区別しながら読んだりさせる。

社会科における平成22年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・ 全学年の各観点、各領域別において、区の平均値を下回る結果となった。各学年で学習してきた知識や表やグラフを適切に読み取り活用するスキルが十分に身に付いていないことが読み取れる。思考力・判断力・表現力を一層高めるためにも、各学年で身に付けなくてはならない用語レベルの知識を定着させるとともに、資料活用の視点を指導していくことが課題となる。
- ・ 今後、子どもたちの意欲・関心を高め、安定した学力を身に付けるためにも問題解決的な学習を実践し、改善を行う必要がある。教科書・資料集の記述内容を指導するのではなく、単元全体の中で学習問題を共有し、知識と知識との関連性を子どもたちが感じられる学習を構想し、改善を図りたい。

社会科における調査結果の分析

	3年単元	4年単元	5年単元
内容別結果の分析	学校のまわり 市の様子 工場 店の仕事 農家の仕事	安全なくらし ごみの始末 水 昔のくらし 地形図の見方 県の様子	農業・水産業 食料生産 自動車 日本の工業 情報 国土と気候
観点別結果の分析	社会的な思考・判断	資料活用のための技能・表現	社会的事象についての知識・理解
	区平均に対して、「学校のまわり」「市の様子」では地図の読み取りを中心に学習内容が定着している。「店の仕事」では、複数の表から読み取ることが難しく、資料を適切に活用できるようになることが課題である。	全内容において、区の平均を下回る結果となった。特に「都の様子」では、大きく平均値を下回った。「安全なくらし」では、区の平均値に近い正答率を示している。各単元ごとに地図を活用し、用語レベルの知識を定着させたい。	全内容において、区の平均値を下回る結果となった。特に、「水産業」や「情報」の単元では大きく平均値を下回った。児童の興味・関心を高めるような資料やゲストティーチャーの活用等を通して追究しようとする姿勢を育てていく必要がある。
	社会的な思考・判断	資料活用のための技能・表現	社会的事象についての知識・理解
	どの学年においても、区の平均値を下回った。また、学年によって、達成度に関心が見られた。学習感想を書かせたり、キーワードでまとめたりする活動を取り入れていきたい。	どの学年においても、区の平均値を下回っている。比較的4年生は平均値に近い値になった。表やグラフ、文章資料の読み取り方をくり返し丁寧に指導していく必要がある。	全学年において、区の平均値を下回った。学年によって、達成度にも差が見られた。用語レベルの知識、概念レベルの知識を整理し、無駄がなく、基礎・基本が定着できるように授業を改善していく必要がある。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 社会科の学習に対する意欲・関心が低い。  
→ 社会科の学習が、「楽しい」「面白い」と感じられる資料や教材開発を行う必要がある。意欲・関心を高めていくことで、社会的事象についてもっと知りたい、調べてみたい、考えてみたいと追究しようとする姿勢を育てていくことが必要である。
- 2 問題解決的な学習を、定着させていく必要がある。  
→ 断片的な知識の羅列とならないように問題解決的な学習を各学級が実践していきたい。
- 3 学習スキルを定着させる。  
→ 「調べる」学習を充実させることで、学びの質を高めていく必要がある。何を、どうして、どのように調べるのかという目的意識を喚起させたり、資料の読み取り方や話し合い方の指導をしたりすることも必要である。
- 4 指導する内容、身に付けさせる知識を整理して指導する。  
→ 児童が覚える知識が多いと感じるのは、指導内容や最低限習得させるべき知識や技能を指導者側が整理できていないことが原因にある。何を、どのように指導するのかを整理して単元を構想したい。

社会科の授業改善策

全学年共通：問題解決的な学習を実践し、「つかむ」「調べる」「深める」という学習過程の中で、児童に何を身に付けさせるのか、何を考えさせたいのかということを確認した授業実践を行う。

知識・技能を定着させるために： 用語レベルで、各学年で身に付けさせるべき知識をくり返し指導していく。また、最終的に児童に概念として身に付けさせたい知識を説明するために、必要な知識についても整理して指導していく。

○各学年で習得させたい知識・技能：

- 3年 知識：八方位、地図記号 技能：地図の読み取り方、棒グラフ、表の読み取り方
- 4年 知識：地図帳の使い方、都道府県名と位置 技能：折れ線グラフ、円グラフ 資料やグラフを比較・関連づけて読む。
- 5年 知識：都道府県名と位置の習熟 世界の主な大陸や大洋の名称や位置 世界の大陸日本の国土や産業の特色 技能：複数の表やグラフを比較・関連して読み取る。グラフ等の資料から、その資料の傾向をつかめる。
- 6年 知識：学習指導要領で例示されている歴史上の人物名とその業績に関連する社会的事象 日本政治のしくみ 世界の主な国の名称と位置

※参考に最低限身に付けさせたい用語レベルの知識や技能を挙げた。特に地図指導、都道府県名は、各学年でくり返し指導し定着させたい。

学習を定着させるために：

社会的事象について理解することにとどまらぬように、学習感想を書かせるようにすることで社会的事象と社会的事象の関連に気付かせる。社会的事象について説明することを重ねることで、社会的事象に対する自分の考えや思いをもつことができるようになる。また、大切なキーワードを使ってまとめさせることで、考えることが苦手な児童の支援をしていくことも必要である。



## 算数科における平成22年度の授業改善推進プランの検証

## 取り組みにおける成果と課題

- ・ 少人数グループや習熟度別学習を行うことで、自分のめあてに合わせて意欲をもって学ぶようになった児童が増えてきた。
- ・ 友だち同士の考えを交流させる学習を多く取り入れることで、自分の考えを表現しようとする児童が増えてきたが、友だちに分かるように説明することに課題が見られる。
- ・ 表現活動を多く取り入れた学習指導をすることにより、絵や図、数直線を使って問題を解決しようとする児童も出てきた。
- ・ 基本的な計算について定着、習熟を図ることが課題である。
- ・ 問題解決に向かって、様々な方法を工夫し、粘り強くいねいに取り組むようにさせることが課題である。

## 算数科における調査結果の分析

内容別結果の分析	数と計算	量と測定	図形	数量関係
	4・5年生は正答率が区平均と変わらないが、6年生の正答率が区平均より低く課題がある。4年生は1万より大きい数、わり算について、5年生は億と兆、わり算、小数、6年生は分数に課題が見られる。	4年生については正答率が比較的高い数値を示している。5年生は面積、6年生は単位量あたり、体積に課題が見られる。	4年生は円と球・三角形について、6年生は角と円周について課題が見られる。	5年生の計算のきまり、折れ線グラフと表に課題が見られる。4年生は口を使った式、ぼうグラフと表に課題が見られる。
観点別結果の分析	意欲・関心・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
	学習内容についての興味・関心は全体的にあまり高くない。特に、5、6年生は区平均より低く、自分で考えて試行錯誤しようという児童は多くないと思われるので、学習内容を工夫していくことが必要である。	課題を的確にとらえることや、解決のために論理的に考え、様々な方法を工夫することや絵や図、数直線に表して友達に説明することは苦手であるので、具体的な方法を指導していく。	図形の表現・処理はそれほど得意とはいえない傾向になってきている。基本的な計算はほぼできているが、6年生は分数、5年生はわり算、小数、4年生は足し算、引き算、割り算に課題が見られる。さらに定着、習熟を図る	4・6年生については区平均とほぼ同じである。基礎的な学習事項は、ある程度身につけているが、5年生について課題が見られるので繰り返し指導していくことが大事である。

## 調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 文章題を解くとき、数直線に表して式を考えていく力が不足している。  
→問題文をよく読み「関係を表す絵や図」「線分図」や「数直線」「言葉の式」を使って自力解決できるように取り組ませることで、数学的な見方や考え方を育てるようにし、自分の考えを発表させる機会をより多くする。
- 2 基礎的な計算能力を確実につけることが課題である。  
→算数補習やたしかめプリントをいっそう活用し、個々の課題を把握してより多く計算練習に取り組ませる。  
→矢東タイム(朝学習)を活用し、全校で共通に反復練習の時間を確保し、少しでも多くの計算練習に取り組ませる。
- 3 表現や処理の技能を高め、粘り強く丁寧に取り組む姿勢を育てることが課題である。  
→図形の作図などの学習では、一人一人の課題を捉え、確実に習得できるようにする。

## 算数科の具体的授業改善策

**低学年：** 数についての感覚を豊かにするために、入門期におはじきやブロック、パズルなどの具体物を使った作業活動に十分取り組みませ、具体物や日常生活に則した問題を設定していく。

**中学年：** 計算や作図などの基礎的・基本的な技能を身に付けさせるため、繰り返し練習問題により多く取り組ませる。さらに問題文をよく読み、絵や線分図を使うなどして自力解決できるよう取り組ませる。

**高学年：** 数学的な考えを伸ばすために、自力解決をさせ、解き方を友達と比べる活動をより多くする。自力解決の際、数直線や関係を表す図などを使って問題文のイメージをつかむなどの工夫ができるようにする。

## ①意欲を大切に、楽しんで取り組む活動の充実を図り、数感覚を豊かにするために

低→生活科など他教科と関連づけ、日常的に意識して数感覚の体験を豊かにする。

中・高→基本的な計算力を身に付けさせ自信をもたせる。日常生活に関連づけた授業展開や、関連する新聞記事、図書資料などを副教材として活用する。また、発展問題やオープンエンドの思考を働かせるような問題にも取り組ませる。

## ②数学的な見方・考え方を育てる指導の充実を図るために

中・高→自分の考えを数直線や関係を表す図などを使って、筋道立てて他者に説明する場をより多く設定し、友達の様々な考えを知ることで多様な考え方ができるようにする。ノート指導を徹底する。

## ③表現や処理の技能を高める指導の充実を図るために、

中・高→取り組む意欲が継続するもので、できた時の達成感や喜びを味わえるような課題作りをする。少人数で具体的なところも教え合えるよう取り組ませるとともに、定規やコンパスの使い方などの基本的な作業活動を工夫して忘れないよう意図的に繰り返し練習させる。

## ④基礎的な知識を確実に身につけさせるために

低→矢東タイムなどを活用し、繰り返し練習させることで計算能力などの確実な習得を図る。

中・高→少人数グループや習熟度別の学習形態を取り、たしかめプリントなどで個々の課題を把握して一人一人に応じた指導をする。また、矢東タイムや算数補習などを活用し、繰り返し練習させることで計算技能などの確実な習得を図る。

理科における平成22年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・生物や自然の観察や体験の不足が数年来の課題であったが、授業改善に向けた取り組みの結果、生物と環境の正答率がどの学年も一番良く、成果が表れてきている。
- ・4年は、観点別・領域別共に期待値を上回るものが多かったが、5・6年は、下回る結果となった。授業改善に向けた速やかな取り組みが課題である。

理科における調査結果の分析

内容別結果の分析	生物と環境	物質とエネルギー	地球と宇宙	
	4年は、期待値を上回ったが、5・6年は、下回った。特に、6年は、植物の発芽や水中の生物の理解が不十分である。	4年は、電気の通り道・風やゴムの働きの理解が特に良かった。5年は、ものの温まり方が期待値を超えた。6年は、期待値より下回り、実験の技能や知識の定着に大きな課題がある。	どの学年も期待値を下回った。4年は太陽の動き、5年は月と星、6年は天気の違いが特に悪く、観察から得られる知識の定着に課題がある。	
観点別結果の分析	関心・意欲・態度	科学的思考	技能・表現	知識・理解
	5・6年が期待値をわずかに下回っているの、おもしろ理科実験教室などの取り組みを継続する。また、各単元の導入や流れを工夫する必要がある。	4年では、期待値を上回っているものの、学年が上がるにつれ正答率が下がっている。観察や実験の結果からしっかり考察する態度を育てることが大切で	4年は、期待値を上回っているものの、学年が上がるにつれ下がってきている。改善が最も急がれる。	全学年、期待値を下回り、その差は学年が上がるにつれ大きくなっている。観察や実験から得られた知識の定着に力を入れていく必要がある。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 観察や実験のための用具を正しく使う技能を身に付ける。  
→観察や実験の技能を高めるためにも、それぞれの用具の使い方を丁寧に指導し、しっかり理解させる。
- 2 見通しをもって観察や実験をし、その考察を通して、科学的な見方や考え方を養う。  
→観察や実験のたびに、その目的をしっかり理解させてから行う。そして、その様子や結果から分かったことを言葉で表現させる。
- 3 観察や実験の様子や結果から分かったことをきちんとまとめ、知識として定着させる。  
→単元の最後には、ノートなどを使って学習内容を整理し、知識として身に付けるべき事柄をしっかり再確認する活動を取り入れる。
- 4 関心や意欲を高めるために各単元の導入や流れを工夫する。  
→理科実験教室の体験や身近な経験から生まれる「なぜ」「どうして」という気持ちを大事に育て、それらを学習に取り入れる。

理科の授業改善策

- ・観察や実験の基礎的スキルをしっかりと身に付けるために、  
 中学年では、観察や実験の用具や用途を理解して、正しく安全に扱えるよう丁寧に指導する。  
 高学年では、観察や実験を数多くさせる。そして、用具や用途をしっかりと理解して、自在に扱えるようにする。
- ・見通しをもった観察や実験し、そして科学的な見方や考え方を育てるために、  
 中学年では、自然の事物や現象の違いに気づかせたり、比較させたりして、問題を見だし追究する活動を取り入れる。そして、活動の終わりには分かったことを表現させる。  
 高学年では、条件や量的・時間的変化の着目から問題を見だし、計画的に追究する活動を取り入れる。そして、学習の終わりには、条件などの変化と実験の結果から知識を一般化する取り組みをする。
- ・知識として定着させるために、  
 中学年では、学習の最後にワークシートやノートで学習内容をきちんと整理する。  
 高学年では、単元の最後にノートなどを使い、身に付けるべき用語や知識を再確認する。
- ・関心や意欲を高めるために  
 全学年を通して、おもしろ理科実験教室を定期的に行い、理科への興味・関心を高める。児童の身近な経験から生まれる疑問や興味を見逃さぬよう気を配り、それらを取り入れた指導計画を作る。

## 【平成23年度 矢口東小学校授業改善推進プラン】

### 生活科における平成22年度の授業改善推進プランの検証

#### 取り組みにおける成果と課題

- ・段階を経て地域の人々と交流する活動を経て、児童は相手のことを考えながら工夫して活動することができた。
- ・書いたり伝えたりする場を多く設定して授業に取り入れているが、気付いたり感じたりしたことを表現することが不十分な児童もいる。活動時の言葉がけを工夫するとともに、継続的に活動させていくことが課題である。

#### 生活科における調査結果の分析

	関心・意欲・態度	思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
観点別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"><li>・植物の栽培や成長の様子に関心を持ち、愛着をもって継続的に世話をしようとする姿が見られる。</li><li>・地域の人々に進んでかかわろうとしている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・植物の成長の様子など気付いたことや感じたことを表現することが不十分な児童もいる。</li><li>・相手のことを考え、相手を喜ばせられるように計画を立てたり遊びを工夫したりすることができた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・公園探検や町探検を通して、身近な社会や自然にかかわることはできた。しかし、それらに対して愛着をもつまでにはなっていない。</li><li>・家族のことや自分でできることなどについて考え活動する中で、自分の成長を支えてくれている人々の気持ちに気付くことができた。</li></ul>

#### 調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 思ったこと、気付いたことや考えたことを書いたり伝えたりするための基礎的・基本的な学力の定着を図ることが課題である。  
→生活の学習だけではなく、国語など、他教科とも関連付けて書き方を指導していく。
- 2 細かく見たり、気付いたことを進んで確かめようとする環境を多く設定する必要がある。  
→気付いたことや感じたことなどをまとめる際は、視覚的に残るように板書したり、掲示物に残して何度も確かめられるようにしたりする。  
→ものの変化に気付きやすいよう、同じものを何度も見たり触れたりできるような活動を計画していく。

#### 生活科の授業改善策

##### ・思ったことや考えたことを表現することの充実を図るために

○活動の記憶が新しいうちに書いたり伝えたりする場を設定し、気付いたことや感じたことを発表する活動を取り入れる。また、絵で表現したものからも児童の気付きを見取っていき、評価するようにする。

○児童が自然の不思議さや面白さを実感できるような体験的な学習活動を取り入れる。

○活動の際に児童の発見を言葉にしたり、児童のつぶやきを価値付けたりするなど、教師の言葉がけを工夫する。

○幼稚園や保育園の園児とかかわったり地域の人と交流したりする場を設定することで、児童が自分の思いを伝えられる喜びを味わうことができるようにする。

##### ・児童の気付きを質的に高めることの充実を図るために

○対象と繰り返しかかわることができるよう計画的に児童の活動時間を確保する。

○見付ける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動の充実に配慮する。

○気付いたことを確認したり、興味・関心をもって学習を積み重ねたりしていけるよう、まとめの段階では発表内容を板書して視覚的に残したり、掲示物に残したりしておくようにする。

○諸感覚から入る情報を大切に、年間を通して、校庭内や公園などにある植物を見たり触ったりするほか、遊びを通して四季の変化に気付かせる。

【平成23年度 矢口東小学校授業改善推進プラン】

音楽科における平成22年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・基礎的な学力の定着を一人一人につけるため、繰り返し学習しているので力がついてきている。
- ・人前でも自信をもって表現できるよう、一人一人の進捗をよく見て、発表の仕方などを工夫していきたい。
- ・音や話を聴く意識を高め、友だちやクラスで関わりながら、お互いに向上するような学習を取り入れていきたい。

音楽科における調査結果の分析

	関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
観点別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽の学習は関心が高く、個人練習に集中して取り組むことができるが、諦めて投げ出してしまふ児童も見られる。</li> <li>・歌唱は全体で歌う際はよいが、少人数になると消極的な表現になる児童が多い。</li> <li>・鑑賞は授業態度がよくなり、聴きたいという意欲も見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで簡単なリズムや旋律をつくることができ、まだ自由な発想による音楽づくりには至っていない。</li> <li>・表現の工夫に気が付いたり、新たな表現に取り組もうとする児童は多い。しかし、間違えなくなった時点で満足し、さらにより良いものにしようと工夫する努力を好まない児童も見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽は個人差が見られるため、学習形態を工夫していく。</li> <li>・歌唱は部分的に意識すれば音程良く歌うことができるが、楽しさが先行してしまい、意識が向かない場合もある。特に高学年の発声は、個別指導の必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽全体にわたって聴くことはできるが、感じたことを言葉にできない児童は一部見られる。しかし活動を通して気付いたことは書けるようになってきた。また習った音楽用語を積極的に使おうとする児童も多くなってきた。より音楽のよさを感じ取り、表現や創作に活かせる活動を取り入れていきたい。</li> </ul>

授業改善のポイント

1. 友だちや学級全体で、協力をしてよりよい音楽に高め合うことができるようになることが課題である。  
→ペア学習やグループ学習などかわりを重視した授業を工夫する。  
進捗が互いに目に見える工夫をする。学級全体で表現するという一体感をもたせる。
2. 音楽を聴いた感想や特徴を言葉で表現する力が十分ではない。  
→鑑賞の時間を多くもち、聴くめあてをもたせながら指導をする。  
音を表現する言語を知り共有して使う機会を多くもつ。
3. 表現の工夫をして、さらによりよい音楽ができるようにする力が十分ではない。  
→さらに良くするための工夫を普段から意識させる。よくするための手立てや技術を知る機会を多くもつ。

音楽科の授業改善策

	・友だちとかかわりながら、表現の工夫をするために
低	身体表現や手遊びを通じ、人とかかわって表現する喜びを体感させる。
中	ペア学習やグループ活動などの学習形態の工夫を多く取り入れる。 一体感をもって演奏し、協力して全体の音を聴くようにする。
高	見通しをもって、協力し合える学習活動に取り組む。 自分と周りの音をお互いに聴き合って合わせるよう意識させる。
	・音楽を聴いたり、話を聴いたりする意識を高めるために
	音楽室の約束事を守り、合図を見て聴く姿勢がとれるようにする。
低	音楽を聴く時々の約束(体を動かしながら、リズムを打ちながら、口ずさみながら等)を守って聴けるようにする。
中	友達の演奏を聴いて、良さを認め合う活動を取り入れる。 聴く楽しさを味わい、良さを感じ取れる教材を用いる。
高	歌ったり合奏したりする時と、静かに聴くときのメリハリをつけられるようにする。 どの児童も楽しんで取り組める鑑賞活動をし、聴きたくする意欲を高める。
	・自由な発想で音楽づくりに取り組むために
低	よい音を求めて楽器を扱う活動や、即興的な音あそび、リズムあそびを十分行う。
中	グループで協力し合って、よりよい音楽を目指して表現を工夫できるようにする。
高	互いの表現のよさを知り合う機会をもち、多様な表現の工夫に挑戦できるようにする。

【平成23年度 矢口東小学校授業改善推進プラン】

図画工作科における平成22年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・発達段階に応じてその能力が発揮されるよう素材や表現方法を精選し、指導を進めることができた。
- ・児童は、素直な心で材料や題材に向き合い、課題解決のために試行錯誤を繰り返す態度ができています。
- ・作品のよさを認め合うなど、互いに支え合う態度ができており、計画にそった活動ができています。
- ・活動に必要な材料や用具などの準備や基本的な生活態度について、個別に指導を続ける必要がある。

図画工作科における調査結果の分析

	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
観 点 別 の 分 析	材料や題材に対する興味関心が高く、自分らしく表現することに意欲的に取り組む。しかし、自己を見つめ自分なりのこだわりをもって根気よく取り組もうとする態度には個人差がある。	想像力を働かせて発想したり構想したりして、自分らしさを積極的に表現しようとしている。表現のイメージをもちづらい児童には、個々に話を聞き出すなど個別の対応が必要である。	体全体や手指を積極的に動かして表現しようとしている。様々な用具・工具、描画材などを使った表現方法を知り、表現の可能性や面白さを実感できるようにしたい。	作品や身のまわりのものに関心をもつことができている。話し合うことを通して、自分らしく感じたり考えたりして、見る楽しさを味わえるようにしたい。

授業改善のポイント

- 1 身のまわりの材料に関心を持ち、創造的な造形活動に対する意欲をもつことができるようにする。  
→身のまわりの材料を収集することを促し、主体的に活動できるよう題材や導入を工夫する。
- 2 想像力を働かせて構想をたてたり、自分らしく発想したりして、作りだすことの楽しさを味わえるようにする。  
→イメージや見通しをもちやすいよう、場の設定や指導計画・指導内容を工夫する。
- 3 表現の意図に応じて、用具や材料を自分なりに工夫して使うことができるようにする。  
→素材体験を豊富にし、用具や材料の基本的な扱い方や技術的な支援を行い、表現の幅を広げられるようにする。
- 4 身のまわりの造形物や作品のよさを感じ取り、自分らしく味わうことの楽しさを知る。  
→話し合う活動を通して、自分なりの見方や感じ方に自信を持ち、対象の美しさやよさを楽しく味わえるようにする。

図画工作科の授業改善策

	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
低 学 年	五感で感じ、体全体で表現する楽しさを味わえるよう題材を工夫する。	自分らしく想像したり発想したりすることに楽しさを感じられるよう、生活に身近な題材をとりあげる。	ぬる、型押しをする、切る、はる、ちぎる、折るなどの技能を身に付け、表したいものを表出できる楽しさを実感できるようにする。	色や形を見てその違いをくらべたり、色や形の特徴をとらえて、(～みたいに見える)と、見立て遊びをするなど見ることの楽しさを味わうようにする。
中 学 年	様々な描画材や用具・工具による表現方法を知らせ、表現に対する意欲がもてるようにする。	自分らしく想像したり発想したりする楽しさを実感できるよう、題材や授業の流れを工夫する。	絵の具、墨やパステルなどを使った多様な表現方法を知り、カッターナイフ、小刀、のこぎり、げんのうなどの工具の使う技能を身に付けて表現の幅を広げる。	自分の作品について話したり、お友達の作品のよさを見つけて発言するなど、活発な言語活動を通して作品の見方を深めていく。
高 学 年	生活に身近なものや他教科に関連したものなどを題材として扱い、興味・関心がもてるようにする。	自分らしく想像したり発想したりすることに、楽しさや自信をもてるよう、プロセスを大切に授業を計画し、共感したり励ましたりしながら共に課題を解決していく姿勢をもつ。	金属や木材などの素材や電動工具などの基本的な扱い方を身につけるようにする。題材や指導過程を工夫し、個々の表現の自由度を高められるようにする。	作品や、身の周りの造形物の良さを見つけたりする活動を通して、その価値を見いだしていく力を育む。

【平成23年度 矢口東小学校授業改善推進プラン】

家庭科における平成22年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・ 家庭生活の意義や在り方を理解することはできた。また、調理実習や裁縫などの具体的活動はとても意欲的に行い身についたと考える。
- ・ 家庭や家庭生活を見直すということはほぼできた。それを自分の生活の中で生かせるようにすることが今後の課題である。
- ・ 基本的な技能はほぼ身に付いている。しかし、創意工夫をこらして調理したり、布の特性を生かした作品を作ったりすることに課題がある。

家庭科における調査結果の分析

観点別結果の分析	家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
	衣食住の中でも、特に衣食について関心が高い。調理実習や裁縫などは意欲的に取り組む。一方、学んだことを自分の生活の中で生かそうとする児童とそうでない児童の二極化が見られる。	自分の生活において、課題を見つけようとすることができる。しかし、調理実習や裁縫などで、自分なりの工夫を考えようとする児童とそうでない児童が見られる。	基礎的な技能はほぼ身に付いていると考えられる。集中して取り組むこともできる。しかし、裁縫では元々手先の不器用な児童が多く、完成まで時間を要す。	衣食住や家族の生活に関する基礎的なことについては大体の児童が理解している。

授業改善のポイント

- ・ 児童一人一人が学習に興味・関心をもち、自分で考えて行動できる力の向上を図る。
- ・ 家族の一員として課題をもち、解決しようとする力の育成が必要と考える。
- ・ 学習したことを自分の生活の中でも生かしていける力を養う。
- ・ 自分で考え、創意工夫ができる題材の与え方や手立てを工夫する。

家庭科の授業改善策

- ・ **学習に興味・関心をもち、自分で考えて行動できる力の向上を図るために**  
 具体的に ① 興味・関心をもち、思考を深めると考えられる教材や教具の活用に取り組む。  
 ② 児童一人一人のよさや、可能性を生かすことができるような教材や題材の構成に取り組む。  
 ③ 自分で考え、創意工夫できる教材や題材、手立てを設定する。  
 ④ 自分の生活における課題を解決するために、生活をよりよくする方法を考えたり、体験したことをまとめたり発表したりする学習活動を充実させる。
- ・ **家族の一員として課題をもち、解決しようとする力の育成のために**  
 具体的に ① 主体的に調べたり観察したりする学習を繰り返し行えるような指導計画作りに取り組む。  
 ② 課題解決の過程で児童が自分で学習を深めていける授業の構成に取り組む。  
 ③ 調理実習の体験を通して、食育の大切さを学ばせるとともに、自分の生活の中でも取り入れ、家庭での自分の役割を自覚し、果たせるようにする。  
 ④ 学習したことを自分の生活の中で実践できるような授業の構成や課題提示に取り組む。

【平成23年度 矢口東小学校授業改善推進プラン】

体育科における平成22年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・運動に対しての意欲が高まっているが、関心の高い運動とそうでない運動に差がある。さらに、運動技能を高めるように意欲的に取り組むことが課題である。
- ・健康に関しての知識を自分の生活と関連させて考える力は育っているが、まだ不十分である。

体育科における調査結果の分析

	運動領域	保健領域
低学年	広い場所での活動をした経験が少ないと思われる。長い距離を走ることが苦手である。	
中学年	関心のある運動に偏りがある。柔軟性、巧緻性に欠けるところがある。友達と協力することは苦手な面がある。	生活・健康・体の発達について理解し、知識はあるが、実践する力が弱い。
高学年	柔軟性がやや不足している。器械体操が苦手である。ボール運動やゲーム運動に対しても意欲が高い。	心の健康・病気・けがの原因・生活習慣病についておおむね理解している。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- ・全体的に進んで運動に取り組むが、苦手な運動に取り組むのが課題である。
  - 体育朝会や休み時間を利用して全校で持久走やなわとび運動に取り組む。
- ・互いの技能やチームワークを高めるための意欲を育てることが課題である。
  - 体育の授業でグループ活動を取り入れて、励まし合いアドバイスし合いながら運動に取り組む。
- ・健康に関しての知識はあるが、実践していこうとする力を身に付けることが必要である。
  - 早寝早起き朝ご飯や手洗いうがい等を実践させ、このような活動の積み重ねで健康が維持できていることを実感させる。

体育科の授業改善策

- 低学年:** 基本の運動やゲームの簡単なルールを学ぶことにより、さらに友達と仲良くなりながら工夫して楽しく運動をし、健康・安全に気を付けて体力をつける。
- 中学年:** 各種運動に取り組むことにより、特性に応じた技能を身に付ける。友達と協力しながら、最後まで楽しんで運動をし、その特性に応じた技能を身につけ、健康・体力の養成を図る。持久走、縄跳び運動などの全身運動の持続トレーニングを増やし、持久力の向上に努める。
- 高学年:** 各種運動に取り組むことにより、活動を工夫・計画して喜びを味わいながら健康・運動の技能を身に付け、自分の力を最後まで出し切って体力向上を図る。マラソンなどのトレーニングを増やし、筋持久力の向上に努める。

・いろいろな運動に意欲的に取り組むために

- ・体育集会や休み時間で関心が高まるように啓発する。
- ・器械運動や用具の充実を図る。
- ・導入時に視聴覚教材等を使い導入を工夫する。また、一流のアスリートをできるだけ呼び、指導を受ける機会をつくることで意欲を喚起する。
- ・スモールステップの学習活動を積み重ねて達成感を味わわせる。

・互いの技能やチームワークを高めるための意欲を育てるために

- ・約束やルールの遵守を指導しながら互いに前向きな声かけができるように手本を示しながら取り組む。
- ・ペア学習やグループ学習を取り入れ、積極的にアドバイスをし合える学習形態を工夫する。

・健康への意欲を高める指導の充実を図るために

- ・食育や外部の歯磨き指導員による指導を通して、毎日の生活における食生活・歯磨きなど、基本的な生活習慣の意欲の向上を図る。
- ・全校での生活指導目標を生かして、手洗いうがいなどの身の回りの衛生について意欲の向上を図る。
- ・外部の講師を活用し、心の発達や、病気・けがの予防・防止、薬物の危険性について意識の向上を図る。